

実践高校

生徒の「わからない」から
授業をデザインする

佐々木 忠夫 (ささき・ただお 宮城・非常勤講師)

1. はじめに

今年3月に再任用5年を終えて退職をした。4月からは2つの学校で非常勤講師をしている。1つは単位制高校で、小学校・中学校時代に不登校だったり、自閉症スペクトラムやADHDなどで学校生活がうまくできなかったりした生徒のために作られた学校である。最近では外国にルーツを持っている生徒の数も増えている。もう一方の学校は普通科と家政科の2学科2クラスの小規模校であるが、常に定員割れをしている。

どちらの学校も英語を苦手とする生徒がほとんどの学校である。

2. 英語学習の困難さを抱える生徒たち

授業が始まってみると、その大変さで困惑してしまっている。英語の音読ができない。英文の意味が取れない。英文を書き写せない。それ以前の問題がある生徒も多い。

たとえば、先日の授業で、アルファベットがわからない生徒がいた。ALTの授業で、これからする会話の原稿を書いているとき、**want**の綴りがわからない生徒がいた(一人だけではないが)。それで、「ダブリュー・エイ・エヌ・ティ」と言ってあげたのだが、それを聞いても書けない。しかたなく、プリントに書いてある他の単語からアルファベットをひとつひとつ拾い上げ、指差してあげた。

また、フィリピンから昨年来たばかりの兄弟がいる。兄は日本語が多少話せるが、弟はほとんど話せない。しかし、授業で使われる日本語になると、十分理解できるほどの力は兄にもない。2人が入っている授業には日本人の生徒が1人いるが、自閉症スペクトラムがあり、コミュニケーションがうまく取れない。

3. 「小学校以来、初めて英語がわかった！」

4月の授業は教科書に入る前に、「寺島メソッド」

(元岐阜大学教授 寺島隆吉氏が考案した英語学習法、一般的には「記号づけ」として知られている)を使って、英語の基本構造を理解するための授業を行った。「名詞+動詞+名詞」の構造を中心にした英文の意味を取ることに特化したプリントを作成して、それで授業を行った。

(資料1)

A 次の英文の意味を書きなさい。ただし、[]は前置詞句になります。

(1) I ^① my homework + [in the library].

_____ + _____

(2) My mother ^{掃除する} (cleans) ^{ほとんど} almost all + [of the rooms] + [in my house].

_____ + _____ + _____

(3) My sister ^{助ける} (helps) my mother + [with the housework].

_____ + _____

(4) My sister often ^{見る} (looks) [at herself] + [in the mirror] + [in the morning].

_____ + _____ + _____

英文の意味を取ることが目的なので、ほとんどすべての単語に意味をつけた。そして、「英語の語順の基本はセンマルセンだよ。日本語にするときはセンセンマルの順番にするんだよ」と言いました。それでも英語の苦手な生徒は単語の意味はわかっても、日本語にするためには適切な助詞を補わなければなりません。それができないのです。それをみんなで考えて、補います。そうすると、最初一人ではできなかった生徒が徐々に一人でできるようになってきます。

その授業が終わったとき、ある生徒が「小学校以来、初めて英語がわかった」と感想を書いてきました。果たして、彼は中学校3年間どんな気持ちで英語の授業を受けてきたのだろうか。

4. 何がわからないのか

英語の苦手な生徒は何がわからないのだろうか。生徒に聞いてみると最初に言うのは、「全部です」と答える生徒が多い。

自分のわからないことを明確に言うことすらでき

ない。というよりも、考えることすら嫌なのかもしれない。

しかし、丁寧に聞いていくと、「英語の質問に答えられない」「音読ができない」「意味が取れない」「単語が覚えられない」など次々に出てくる。

英語学習では読みの力が基礎になる。その力を付けずに行う英語学習は暗記を強いる学習になってしまう。暗記が不得意な生徒は英語がわからず、英語嫌いになる。

5. まずは「寺島メソッド」で読みの力を

では、生徒はどのようにして英語を読んできたのか。彼らに聞いてみると、中学校時代の英文の意味の取り方は和訳のプリントを配布されるか、プリントによっては、新出語の部分だけが空欄になっており、そこにその意味を書き込むようなものもあるようだ。

したがって、生徒は英文とその和訳を暗記せざるを得ないのである。なぜ、そのような意味になるのかもわからずに。

寺島メソッドでは「読み」は四技能の土台だと考える。だから、まずは読めるようになることが、英語が苦手な生徒も「わかる」「できる」を実感し、意欲的英語学習に取り組めるようにする方法である。

6. 『記号づけプリント』の授業

私は初任のときから教科書の英文を「寺島メソッド」の『記号づけプリント』に作り変えて使用している。

(資料2)

Lesson 9 A Bridge Between Japan and the U.S. 1

Lesson 9 A Bridge Between Japan and the U.S.
Part 1

(1) Taylor Anderson (was) a warm and kind person. (2) She (thought) a lot [about others]. (3) Her smile (charmed) everyone [around her]. (4) She (loved) Japanese culture and people very much.

ヒント
 (1) Taylor Anderson 「テイラー・アンダーソン」、was 「いた」<beの過去形、warm 「温かい」、kind 「親切な」、person 「人」
 (2) thought 「思いやる」<thinkの過去形、a lot 「たくさん」、others 「他人」
 (3) her 「彼女の」、smile 「笑顔」、charmed 「魅了した」、everyone 「みんな」、her 「彼女の」
 (4) loved 「愛した」、Japanese 「日本の」、culture 「文化」、people 「人々」、very much 「とても」

問題1 上の語句の意味を下の同じ記号に書き入れなさい。

(1) テイラー・アンダーソン (1) () であった (2) 温かい (3) そして (4) 親切な
 人 () (2) 彼女 (1) () 思いやった (3) たくさん (2) [~について] 他人 ()

(3) 彼女の笑顔 (1) () 魅了した (2) みんな (2) [~のまわりの] 彼女 ()

(4) 彼女 (1) () 愛した (2) 日本の文化 (2) () そして (3) 人々 (2) とても ()

このプリントには単語の意味はすべてヒントとして与えてある。生徒は記号に合わせて前から英語の語句に意味を記入していく。

しかし、英語の語句の意味をそれについている記号と同じ記号の中に書き込んでいけばいいだけなの

だが、それができない生徒が多い。英語からヒントを見て行く途中で、英語についていた記号を忘れてしまったり、違う記号に意味を書き込んでしまったり、2つ以上の単語の意味を同じ場所に書かなければいけないとき、ある単語の意味を書き忘れてしまったりする。

さらに、うまく書き込めたからといって、その意味が取れるかというところでもないのである。英語を苦手とする生徒は日本語力も低いことが多い。英語の語順になった日本語では日本語力の低い生徒は理解できないのだ。そんなときはみんなでその文の意味を考えることで、できなかった生徒も少しずつできるようになる。

このプリントに語句の意味を英語順で書き込むことはとても重要である。それがあからゆくりと自分のペースで考えることができるからである。彼らが口頭による英問英答が不得意なのは音がすぐに消えてしまし、考える道具にはならず、自分のペースで考えることができないからだ。

それで私は複文や後置修飾語が長くなっている文のときは、一気に全体の訳を求めず、フレーズごとの訳を生徒に言わせ、それを順に板書していく。その後、それらのフレーズをいくつかをつなげて2つから3つにフレーズを大きくする。そうすれば、全体の和訳がしやすくなる。生徒が考えやすい大きさの思考材料にしていくのである。

また、私は英語の苦手な生徒が多い学校で使われている教科書は簡単な構造の英文だけで、しかも英文量が少ないことが多いが、これではインプット量があまりにも少なすぎると思っている。私は教科書だけに頼らずに英語のインプット量を増やすために、英語の絵本を生徒に読んでもらっている。しかも、寺島メソッドを使って。

7. 英作文&英問英答も記号をつける

ここまで読んでくると、アウトプットはしないのかと思われるかもしれない。しかし、アウトプットはまずはライティングを大事にしている。これも思考の材料として頭の中にあるものを文字化することから始めるためである。

そのために並び替えの英作文を重要視している。しかも、一般的な並び替え英作文とは違う。日本語の下に英語を置いている。そうすることによって、日本語を英語の語順に並び替えるだけで英文ができ

る。英語の語順の日本語ができれば、英文を作れるまではもう少しである。あとは語彙だけである。電子辞書やスマホで調べればよい。このようにして、多量に英文を書いていけば、英語で考える準備ができる。

(資料3)

9 外国人に日本の都市を紹介しよう！(助動詞)

提出日：____月____日

問題1 次の日本語で、英語にしたときに動詞になるものに○、主語に下線を引きなさい。
次に日本語の意味るように、語句を並びかえなさい。

(1) 仙台は 緑がいっぱいの すてきな都市 です。
Sendai full of greenery a nice city is

(2) 仙台は 温泉が (あり) (あなたは) それを (楽しめます)。
Sendai a hot spring resort has (and) you it can enjoy

(3) 仙台では、 5月には 青葉祭りが、 8月には 七夕祭りが (開催されます)。
Sendai in May the Aoba Festival and in August the Star Festival holds

これを口頭でやろうとすれば、英語の語順が身につかず、単語レベルの会話しかできない生徒が増えるだけである。

また、英問英答もまずは書くことを十分にしてから口頭で行うことにしている。これも理由は同じである。英語の基本語順を身につけるためのである。

(資料4)

Answer the questions about Lesson 4

疑問文への答え方

(1) 疑問文の基本形 疑問詞 + (助動詞) + 主語 + (動詞) + ~?

(2) 主語を代名詞に

単数	複数
I	We
You	You
He	They
She	
It	

(3) 主語の後に「助動詞+動詞」のように1つの○に
ただし、do/does/didは消える。doのときはそのまま消える。
doesが消えるときは-(e)sが動詞につく。didが消えるときは動詞が過去形になる。

8. 語彙学習は後回し

ここで語彙の問題について触れておきたい。

英語の苦手な生徒は当然語彙力がない。だからと言って語彙力を高めるために単語帳を持たせ、覚えさせ小テストをするということをしてはいけない。進学校の考えた受験のための勉強を彼らに強いてはいけない。そうすれば、一層英語嫌いになる。今では進学校でなくてもそうしている学校が多い。

英語の苦手な生徒は語彙力がないだけでなく、当然英語の基礎基本の語順もわからない。その両方を同時に求めることは彼らを苦しめるだけである。それよりは英文を読める楽しみを十分に味わってもら

うことのほうが有意義である。その楽しみがあれば英語学習を続けていく力になる。

だから、寺島メソッドのプリントでは語句の意味をすべてヒントとして与えている。

また、そうすることで何度も出てくる単語は知らず知らずのうちに意味を覚えてしまう。そして、英文をいっぱい読むことで自然に語彙もついてくる。ある意味で多読学習なのである。

9. 日本語の力を豊かに

英語が苦手な生徒のほとんどは、英語学習を支える日本語の力がとても低いことが多い。それをどれだけ豊かにできるかが実は大切である。

英語の語順の日本語の意味が取れない。すなわち、和訳ができない生徒は日本語力、といっても日常会話の力ではなく、学習言語としての日本語力が足りないのだ。

しかし、寺島メソッドで授業をすると、日本語と対比しながら英語を学ぶことになるので、学習言語としての日本語の力も上げることができる。

また、寺島メソッドでは「母語力上限の法則」というのがあり、外国語力は母語力を超えないと考える。この母語力も私は学習言語としての母語だと思っている。それを高めるために日本語による作文をいっぱい書かせている。

10. おわりに

授業中、生徒が窓の外をぼんやり眺めていたり、空中のどこかで視点が止まっていたりすることがある。授業に集中できていないというより、脳が勝手に集中を切っているようにも思える光景がよく見られる。それは教員(私)が彼らには理解できないことを話していたり、課題をさせていたりしているのだ。それに気が付き、彼らが理解できる形で再提示できることが私は大事だと思っている。だからこそ、彼らの表情を常に見ることが大切である。だから、私の授業は計画どおりにはほとんどいかない。

授業は生ものなのである。

(参考文献)

山田昇司(2014)『英語教育が蘇るとき—寺島メソッド授業革命—』明石書店
寺島隆吉監修・山田昇司編著(2016)『寺島メソッド英語アクティブ・ラーニング』明石書店